

がん教育における養護教諭の役割に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴江, 毅 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027971

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01756

研究課題名(和文)がん教育における養護教諭の役割に関する研究

研究課題名(英文)Study about the role of Yogo teacher in the Cancer Education

研究代表者

鈴江 毅 (suzue, takeshi)

静岡大学・教育学部・教授

研究者番号：70398030

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：養護教諭を対象とした調査から、がん教育への関心・知識・必要性など、コーディネーターや外部講師の役割、研修会の重要性などに関して、重要な知見が得られた。次にごん専門医療関係者を対象とした聞き取り調査の結果、がん専門医療関係者のがん教育に対する認識が得られた。また国際学会に参加し各国の情報を収集し、がん教育の多様性と重要性、養護教諭の果たす役割などが明らかとなった。さらにごん教育関係の文献調査や各種国内学会に参加してがん教育と養護教諭に関する情報を収集した。最後にがんサバイバーへの聞き取り調査からがんサバイバーのがん教育に対する認識、特に養護教諭の役割について有用な認識が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

養護教諭を対象とした調査から、がん教育への関心・知識・必要性など、コーディネーターや外部講師の役割、研修会の重要性などに関して、重要な知見が得られた。次にごん専門医療関係者を対象とした聞き取り調査の結果、がん専門医療関係者のがん教育に対する認識が得られた。また国際学会に参加し各国の情報を収集し、がん教育の多様性と重要性、養護教諭の果たす役割などが明らかとなった。さらにごん教育関係の文献調査や各種国内学会に参加してがん教育と養護教諭に関する情報を収集した。最後にがんサバイバーへの聞き取り調査からがんサバイバーのがん教育に対する認識、特に養護教諭の役割について有用な認識が得られた。

研究成果の概要(英文)：A survey of nursing teachers provided important insights into the roles of coordinators and external instructors, including interest, knowledge, and necessity of cancer education, and the importance of training sessions. The results of interviews with cancer specialists showed that cancer education was recognized by cancer specialists. They also participated in international conferences and collected information from various countries, revealing the diversity and importance of cancer education and the role of nursing teachers. In addition, information on cancer education and nursing teachers was collected by participating in literature research on cancer education and various domestic academic societies. Finally, interviews with cancer survivors provided useful insights into cancer education, especially the role of nursing teachers.

研究分野：学校保健

キーワード：がん教育 養護教諭 学校保健

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在わが国の死亡原因の1位は「がん」であり、約3人に1人が「がん」で亡くなり、一生のうち2人に1人が「がん」にかかるといわれており、「がん」は誰にでもかかる病気であると言われている。しかしながら、健康な時からがんについて学ぼうという意識は低く、多くの患者が「がん」と告知されてから、知識のないことに気づき、慌てて学んでいるのが現状である。検診による早期発見・早期治療や、生活習慣を整えことでの予防も大切であり、大人も含めて正しい知識を知る機会が少ないのが現状である。

がん教育の対象者としては、「医療関係者」、「がん患者・家族・支援者」、「がんになっていない成人」、「成人になる前の学校教育」の4段階があると想定されている。それぞれのカテゴリーで教材・教育内容をどうするか、誰が教育するのか、フォローアップ体制はどのようにするのか、現段階では情報も少なく、各現場で独自の工夫をしてがん教育を行っているのが現状である。中でも子どもに対するがん教育は非常に重要で、子どもたちに知ってもらうことで、家族や周囲の人たちの意識変化にもつながる可能性がある。

厚生労働省においては、平成18年「がん対策基本法」に基づき、平成19年に「がん対策推進基本計画」が策定され、そのなかにはがんの教育・普及啓発として、子どもに対するがん教育のあり方を検討し、健康教育の中でがん教育を推進することが謳われている。文部科学省では、平成26年度より「がんの教育総合支援事業」が実施され、「がん教育の在り方に関する検討会」などが開催されており、有識者によりがん教育の具体的な進め方について議論が交わされ、全国21か所の道府県・指定都市において、学校における「がん教育」の取組を推進するとともに、教育委員会等によるがんの教育用教材の作成・配布、専門医等の講師派遣、研修会等が行われている。

しかし現段階ではごく少数の学校において、モデル教育が始まったばかりであり、がん教育を誰が、どのような内容で、どのように実施することが望ましいのかは定まっていない。特にその実施者は、医療系の専門家として一般医、がん治療の専門医、がん専門看護師、地域の保健師などが挙げられ、その他の人材としては、元あるいは現がん患者やその家族、がん患者の家族会や支援団体などが挙げられる。これらの人材のうちどのような人物が適任でどのようにくみあわせればよいのかなどまだ不明である。特に学校保健の関係者としては、養護教諭が挙げられるが、実際にどのくらいの養護教諭ががん教育に携わっているか、どの程度の健康教育を行っているか、について検討が必要と思われる。がん教育における養護教諭の役割、現状の把握、問題点・課題の把握とそれに対する具体的な対応策の確立が求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、がん教育における養護教諭の役割について、全国の養護教諭へのアンケート調査および諸外国でのがん教育(学校保健分野)に関する実態調査を行い、保護者および医療関係者へのインタビュー調査の結果と合わせ、がん教育に関する養護教諭の取り組みの現状および問題点を明らかにすることで、今後のがん教育において養護教諭が果たすべき役割を確立し、わが国のがん教育を推進するための基礎的知見を得ることである。

3. 研究の方法

がん教育における養護教諭の役割について、全国の養護教諭へのアンケート調査、諸外国でのがん教育(学校保健分野)に関する実態調査を行い、保護者および医療関係者へのインタビュー調査の結果と合わせることで、がん教育に関する養護教諭の取り組みの現状および問題点を明らかにする。そのうえで、今後のがん教育において養護教諭が果たすべき役割を確立し、養護教諭による標準的な教育プログラム作成し、わが国のがん教育の推進するための基礎的知見を得る。

(平成28年度の計画)

全国の小学校から200~300校程度を無作為に抽出し協力を依頼する。協力小学校の養護教諭を対象に、「がん教育における養護教諭の役割についての実態調査」としてアンケート調査を行う。項目としては、学校におけるがん教育の現状、人的資源、教育プログラム、養護教諭の行うがん教育の内容、保護者との連携、医療関係者との連携、学校医の関わり、などについて多面的に検討する。

諸外国の実情を知るために取材旅行を行う。対象国としては世界的にバランスを考慮し、米国、ヨーロッパ、アジアの数か国とする。実際の調査は各国別に行い、現地コーディネーターに依頼し、それぞれ数校においてがん教育の現状を視察し、教員およびスクールナースを対象に半構造的インタビューを行い、がん教育と学校保健職員との関係を明らかにする。1回の取材で1週間程度をかけ、3回程度行う。

(平成29年度の計画)

返却されてきたデータを入力し、統計的な解析を行う。

平成28年に回り切れなかった場合に、引き続き諸外国のがん教育の実情を知るための取材を行う。

東海地方の数校の小学校の協力を得て、保護者にごがん教育に関するインタビュー調査を行う。また数か所の病院等医療機関に依頼して、がん教育に関わっている医療関係者にインタビュー調査を行う。

(平成30年度・令和元年度の計画)

各データを回収し、静岡大学にてパソコンおよび解析ソフトを用いてアンケート調査のデータを解析する。諸外国の実情調査をまとめ、わが国の養護教諭ががん教育を行うにあたっての参考にする。保護者・医療関係者インタビュー調査の結果を加えて検討する。がん教育担当者としての養護教諭の現状、養護教諭が行うべきがん教育の標準化プログラムの作成、今後のがん教育において養護教諭が果たすべき役割、などをまとめる。その後、国内・海外の各種学会において発表し、論文の形で報告・発信する。

4. 研究成果

養護教諭を対象とした調査から、がん教育への関心・知識・必要性など、コーディネーターや外部講師の役割、研修会の重要性などに関して、重要な知見が得られた。次にがん専門医療関係者を対象とした聞き取り調査の結果、がん専門医療関係者のがん教育に対する認識が得られた。また国際学会に参加し各国の情報を収集し、がん教育の多様性と重要性、養護教諭の果たす役割などが明らかとなった。さらにがん教育関係の文献調査や各種国内学会に参加してがん教育と養護教諭に関する情報を収集した。最後にがんサバイバーへの聞き取り調査からがんサバイバーのがん教育に対する認識、特に養護教諭の役割について有用な認識が得られた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴江 毅、片山はるみ、鎌塚優子、矢野潔子、谷 健二	4. 巻 21
2. 論文標題 がん専門医療関係者が語る「がん教育」に対する認識	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域環境保健福祉研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 1343-9286	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴江 毅、片山はるみ、鎌塚優子、矢野潔子、谷 健二	4. 巻 21
2. 論文標題 海外におけるがん教育の現状～養護教諭の役割について～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域環境保健福祉研究	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 1343-9286	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 河田史宝、内山有子、朝倉隆司、池田英二、籠谷 恵、笠巻純一、神林康弘、鈴江 毅、七木田文彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東山書房	5. 総ページ数 229
3. 書名 養護教諭のための公衆衛生学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷 健二 (tani kenji) (80115451)	静岡大学・教育学部・特任教授 (13801)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鎌塚 優子 (kamazuka yuuko) (80616540)	静岡大学・教育学部・教授 (13801)	
研究分担者	矢野 潔子 (yano kiyoko) (80549163)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	